

北海道森林管理局入札監視委員会審議概要

開催日及び場所	平成21年 3月17日(火) 北海道森林管理局 中会議室	
委員	長 員 員 員	松田 彊 (北海道大学名誉教授) 前田 憲秀 (前田憲秀税理士事務所) 向田 直範 (北海学園大学教授) 丸谷 知己 (北海道大学大学院教授) 欠席
審議対象期間	平成20年10月1日～平成20年12月31日	
抽出案件	総件数 82件	(備考)
治山工事	19件	その他の説明・報告事項等 ・総合評価落札方式について説明 ・指名停止の状況 ・物品・役務の調達方法別一覧 ・随意契約に関する四半期ごとの監査結果概要
林道工事	16件	
治山工事に係るコンサルタント業務	10件	
林道工事に係るコンサルタント業務	8件	
造林事業	14件	
生産事業	12件	
その他	3件	
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問	回答
	<ul style="list-style-type: none"> ・大平地区火山防災事業について落札率がかなり低いけどどのような理由からか。 ・東広尾川林道災害復旧工事で、一回目の入札は3者だったが、再入札で2者が辞退した理由は何か。 ・電子入札で一回目終了後から二回目開札までの時間はどの位か。 ・その時間内で、新しく積算出来るものなのか。 ・石清水林道災害復旧工事について落札率がかなり低いけどどのような理由からか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低入札価格調査を行った結果、企業努力によるものと判断した。 ・電子入札方式による入札を実施。一回目では落札出来なかったため、金銭的な理由で辞退したのではないか。 ・局の場合、最低30分は間隔をあけることにしている。 ・書面による入札の場合、再入札を行う間隔は、5～10分程度であるが、応札者は通常2～3種類の見積もりを作成しており時間的な問題はないと考えている。 ・積算内容について確認したところ、落札者に関しては、直接費はほぼ予定価格並で、間接費において努力した結果であり問題はない。
	・総合評価方式については、業者は	・公表に当たっては、評価点の合計と落

<p>理解しているのか。内容についてどのように公表しているのか。</p>	<p>札金額については公表している。個別の評価点については、公表していない。</p>
<p>・談合が疑われる場合についてどのように対応しているのか。</p> <p>・内容を確認した結果、談合が疑われるとなれば、調査委員会を開くのか。</p>	<p>・低価格入札調査のような明確な基準は設けてはいない。</p> <p>・入札時に提出してもらっている工事内訳書からグラフ等を作成し判断し、後日詳細な見積書を任意提出してもらい内容を確認することはある。</p> <p>・そのとおり。</p> <p>・工事の積算については、比較的単純な工種で構成される工事では、グラフが似通ってしまう場合もあると考えられる。そのために、分析表が似通っていることをもって、談合の疑いがあるとは言いきれないが、分析表を活用することは監視のツールとして有効であると考えている。</p>
<p>・社台川保安林管理道補修工事实施測量及び設計業務について、入札者が7者にも関わらず落札率が100%となった理由はなにか。</p> <p>・入札者の見積もり内容については分析を行ったのか。</p>	<p>・落札者以外は、予定価格より高い価格で応札しており、1者のみ予定価格と同額で応札した。</p> <p>・分析は行っていない。</p>
<p>・数量調査（検知業務）について、このような業務の発注件数は多いのか。</p> <p>・検知を行える会社は、北海道全体で何社あるのか。</p> <p>・検知業務は、職員が行わないのか。本来は、国有林野事業の職員が行うものだと思う。</p> <p>・素材を検知する業者と購入する業者が同じということはないのか。</p> <p>・立木販売に関する選木作業は、直営で行っているのか。</p>	<p>・素材生産を行えば必ず検知を行わなければならないので、件数はある。</p> <p>・各エリアごとに1～2社程度、北海道全体では6社である。</p> <p>・検知業務は、全て請負である。</p> <p>・そのようなことはない。</p> <p>・調査に当たっては、職員が行う場合と請負で行う場合がある。</p> <p>・請負で行う場合は、林野庁に登録した指定調査機関というものがあり、そこが行っている。</p>
<p>・作業道と林道の違いは何か。</p>	<p>・幅員等の規格の違いである。</p>
<p>・一者応札の問題であるが、砂利の</p>	<p>・エリア毎の業者数や運搬距離の問題及</p>

	<p>購入について、100%になるのは仕方がないのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このような状況で、一般競争入札にする意味はあるのか。 ・事情は分かるが、全ての入札を画一的に行うべきではないと思う。落札率が100%でも良いのか。 	<p>びゾーン単価の問題も有り一概には言えない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、全ての契約を一般競争入札にするという流れがある中で、エリア毎に事情を考慮し入札方式を変えることは出来ない。 ・そのようななかでも、落差率が100%以下の入札もある。 ・現状では、結果としてそうになってしまうのは仕方がないと考えている。
<p>委員会による意見の具申又は勧告の内容</p>	<p>なし</p>	